

# 新聞新報

2004年(平成16年)12月24日 金曜日

## 発生2か月 1000人黙とう

新潟県中越地震の被災地は二十三日、断続的に雪が降り続く中で、地震発生から二か月を迎えた。

全村避難している山古志村は同日、希望する村民すべてが長岡市内の仮設住宅への入居を終えたことを受

け、村民ら約百人が出席して市内の国営越後丘陵公園で入村式を行った。避難所となった高校の校長や、救出活動にあたった陸上自衛隊新発田駐屯地の代表らに長島忠美村長から感謝状が贈られた。長島村長は「村



地震発生時刻に黙とうする住民ら(長岡市で)

は白い雪にすっぽりと覆われ、傷だらけの村を包帯で覆ったようだ。白い包帯が解けるまでに村に帰る道を探りたい」と述べた。

長岡市のJR長岡駅近くの広場では、歌や音楽で被災者を励ます復興イベント「中越・夢百俵」が行われた。被災者を励ますメッセージなどが披露され、地震が起きた午後五時五十六分には、集まった市民ら約千人が一斉に黙とう。広場に並べられた二本のろうそくにあかりがともる中、犠牲者の冥福を祈った。

### 長岡で震度4

二十三日午後九時三十分ごろ、新潟県中越地方を震源とする地震があり、長岡市で震度4を記録した。気象庁の観測によると、震源の深さは約十キロ、マグニチュードは4.2と推定される。

ほかに、新潟県栃尾市、

燕市、中之島町、越路町、三島町、与板町、出雲崎町などで震度3を記録した。

気象庁によると、今回の地震は新潟県中越地震の余震とみられる。震度4以上の余震を記録したのは十一月十二日以来。

この地震の影響で、上越新幹線は新潟―長岡で二本運休止、午後十一時過ぎ、運転を再開した。